

## データからみる助成・顕彰事業のあゆみ

芸術文化部門の助成応募数は年々増え、設立当時から比べ10倍以上になりました。平成6年には事業の財源である運用益低迷の為、助成額が一時的に減少したものの、その後は厳しい経済状況においても助成額4,000万円以上を維持しています。

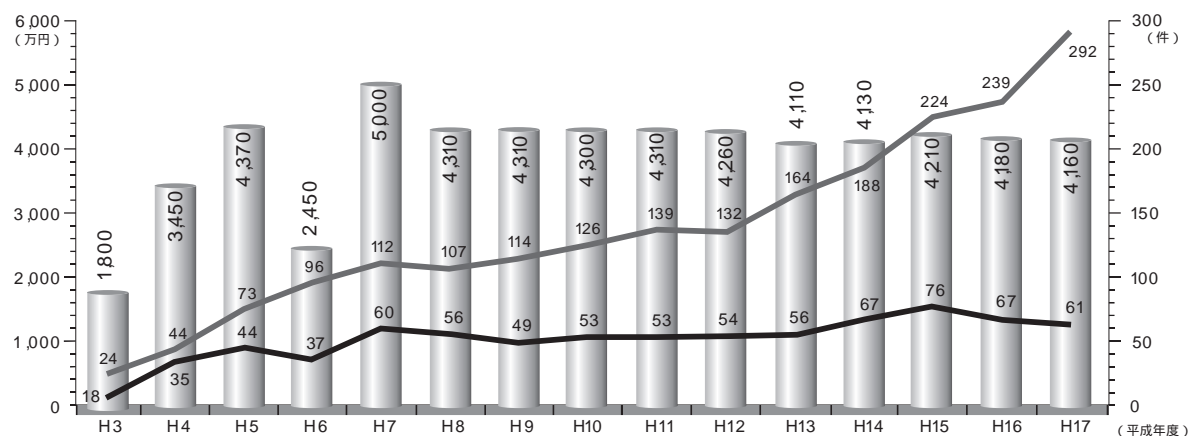
科学技術部門の助成・授賞件数は毎年助成10件・顕彰2件と一定ですが、ホームページでの募集

の公開や、分野をより明確に改訂してからは徐々に応募が増えました。また15年度から、顕彰額を1件50万円から100万円に増額しました。国際会議助成への応募は年々高まり、増加の傾向にあります。平成15年は、科学技術部門の助成の辞退(1件)分を国際会議助成へ転用したため、一時的に国際会議助成額が増加しました。

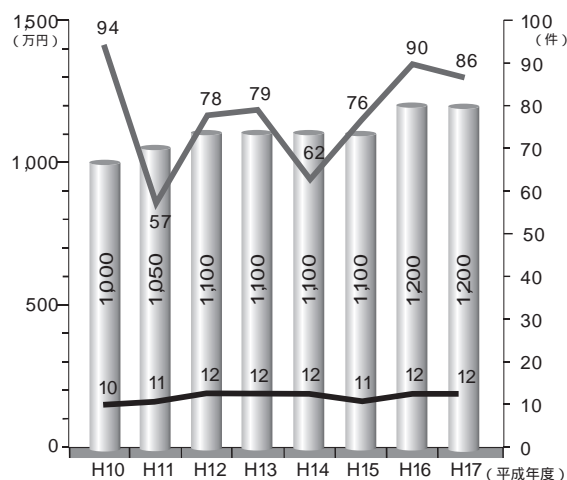
### 各部門の応募・助成件数および助成額

■ 助成額 — 応募件数 — 助成件数

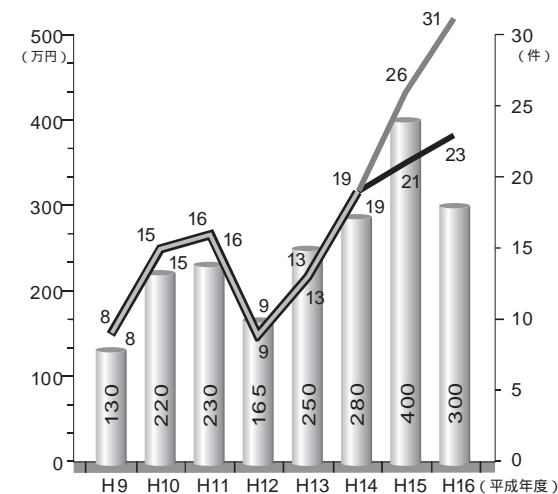
#### 芸術文化部門 助成



#### 科学技術部門 研究助成・顕彰



#### 国際会議 助成



芸術文化部門  
美術展助成



大川美術館 館内



喜多利邸(野田幸江作)

### 団体名 (財)大川美術館

何の資産もないコレクターが創設した大川美術館のオープンに諸々の支えを戴いた人物が、当時花王 株 社長丸田芳郎氏。哲学や宗教を研究しながら、社務



大川美術館館長  
大川 栄二

としては、他社に先駆けてコンピューターシステムを採用した稀有の

経営者だけに、真の国際企業「花王」の中興の祖かと思う。即ち、当財団の設立が同じ頃だが、人間性豊かな芸術文化の暖かい土壌あってこそ、真に役立つ生活技術の「花王」が、世界に生き続けている。

#### 大川美術館の紹介

大川美術館は、群馬県桐生市にある近代美術展示の私立館だが、松本竣介を主軸とした国内外の人間画家を蒐集展示する美の館で、平成 11年に私立では稀有の行幸啓を享受。

### 団体名 エナジーフィールド

このたび花王芸術・科学財団が15周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。

16年度、御財団より私どもエナジーフィールドが主催いたしました「芸術祭 B WAKOピエンナーレ 2004 QUANTUM LEAP」



エナジーフィールド代表  
中田 洋子

にご助成を賜りました。助成金を賜ったことに加え御財団の方々が現地を見学に来て下さった事は忘れ得ぬ良き思い出です。

舞台となった近江八幡市は、豊臣秀次によって造られた美しい城下町です。しかし時の流れによる建物の老朽化は免れず、貴重な日本建築家屋が取り壊され、駐車場や近代建築へと姿を変えつつある悲しい現実もないわけではありません。今後は芸術NPOを立ち上げてそんな町とアートのコラボレーション、新たな「風土」の提案をしていきます。

#### 最近の活動

近江八幡の地元の方々への支持も厚く、2005年12月NPO法人「エナジーフィールド」を設立いたしました。

ホームページ <http://www.energyfield.org/>

芸術文化部門 美術研究助成  
平成12年度(2000年)

氏名 石松 日奈子 Ishimatsu Hinako

助成研究テーマ 中国早期仏教石窟の調査研究 五世紀の華北地域を中心に

## 1500年前の石窟と石仏を求めて、中国の黄土地帯を踏破中

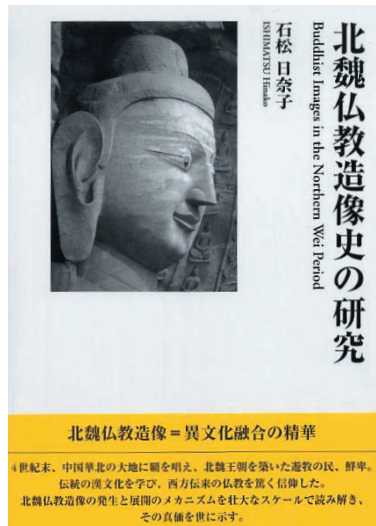


財団設立15周年を心よりお祝い申し上げます。私は、平成12年度に「中国早期仏教石窟の調査研究」というテーマで花王芸術・科学財団の研究助成を賜り、中国甘肅省の敦煌莫高窟や永靖炳靈寺石窟へ行きました。その後も陝西省や山西省、河南省など華北地域に残る5～6世紀の仏教石窟や石仏の調査を続け、2003年春に研究成果をまとめた博士論文を完成、2005年1月に著書『北魏仏教造像史の研究』(ブリュッケ刊)を上梓いたしました。ふり返れば、私はずっと非常勤講師という頼りない身分でしたので、国の研究費を申請することもできませんでしたが、花王芸術・科学財団をはじめとする多くの民間助成制度に助けられて、今日まで研究を続けることができたと思います。また、中国での調査を重ねる中で、現地の機関や研究者との信頼関係を深められたことも大きな喜びでした。

現在では陝西省の2つの研究機関の客員研究員として、学術面での国際交流にも努めています。花王芸術・科学財団の助成制度は、私たち受賞者とおして、現地の文化事業に対しても貢献していると言えるのです。今後も財団の援助のもとに多くの若い研究者が育つことを切に願っております。

### プロフィールおよび受賞歴

1953年福岡県大牟田市生まれ。東京芸術大学美術学部卒業、岡山大学大学院後期博士課程修了。文学博士。雲岡石窟に関する論考で平成16年度國華賞 朝日新聞社 を受賞。現在は実践女子大学ほかで非常勤講師、中国陝西省考古研究所および西安文物保護修復中心の客員研究員。



研究をまとめた著書(ブリュッケ刊)



鞏県石窟第1窟 外壁 北魏・6世紀前半

芸術文化部門  
音楽公演助成



オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より(於 東京文化会館大ホール)



復元楽器による復元曲の演奏(於 カーネギー、ザンケルホール) photo by Marty Soh

団体名 (財)東京二期会

(財)花王芸術・科学財団におかれましては、設立 15周年を迎えられ心からお祝いを申し上げます。

弊財団は、'9年の『トスカ』の公演で助成を頂きまして以来、度々ご支援を頂いてまいりました。

特に '02年創立 50周年を機にスタートさせた海外歌劇場との共同制作には毎回ご賛同を賜っております。長年に亘るご支援に対し、満腔の感謝を捧げるものでございます。

日本の芸術・科学の発展に今後とも貢献されますことを祈念いたします。

主な公演活動

'52年『ラ・ボエーム』で旗揚。爾来今日迄 53年間に亘り 220を超える演目を公演し、日本のオペラ発展を担ってきた。'04のベルリン・コーミッシェ・オーパーとの共同制作『イエヌーファ』では三菱信託音楽賞を受賞。創立 50周年を機に次の 50年に向けて更なる飛躍を期している。



(財)東京二期会  
理事長 粟林 義信

団体名 MUS IC FROM JAPAN , NC .

人と人のコミュニケーションが瞬時に可能な今の世の中にあって、心の繋がりや国際理解の大切さが見直されていますが、優れた音楽や美術は、人間の心の根源を言語を超えて伝達してくれます。

花王芸術・科学財団は、人間性の豊かさとして社会に役立つ科学技術を、従来の枠組みにとらわれず支援されてきました。私どもの小さな事業もその対象としてくださったことを深謝いたします。

ともすれば見逃されがちな文化活動への助成において、これからも貴財団が日本の産業界をリードしてくださることを期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

ミュージック・フロム・ジャパン活動紹介

1975年に日本の現代音楽紹介のためにニューヨークにて設立。日米両国の演奏家を起用したコンサートで、現在までに 51曲の世界初演を含む約 400曲を米国へ紹介。



MUS IC FROM JAPAN, INC.  
理事長 三浦 尚之



## 芸術文化部門 音楽研究助成

平成16年度(2004年)

氏名 大木 裕子 Oki Yuko

助成研究テーマ 非営利として活動する音楽芸術組織の成長モデルに関する研究

我が国のクラシック音楽界の常識を見直し、活性化への施策を探ることが私の研究の最終的な目的です



花王芸術・科学財団が設立15周年を迎えられ、ここにこれまでの15年間を綴った記録集を刊行されますことは、真に意義深く心よりお祝いを申し上げます。

芸術文化活動支援のために設立された貴財団が、先端的、基盤的な科学技術研究、学際的な研究への助成とその対象を拡大され、我が国の将来に向けた文化への支援を続けられてこられたことは、誠に素晴らしいことだと感じております。

幸いにも私は、平成16年度に音楽研究の分野で助成をいただきました。日本のクラシック音楽界を何とか活性化させるお手伝いをしたいという強い気持ちから、長年拠所としてきた演奏を離れ、ビジネススクールから博士課程に進学してオーケストラのマネジメントに関する研究を続けてきました。財団からいただいた助成により、この研究を発展させて芸術組織の成長モデルに関する研究を手がけ、現在は、3か年計画でクレモナにおける弦楽器工房を対象とした情報伝達のダイナミズムに関する研究に着手しております。研究の途上で貴財団からいただいた助成は、将来に向けた布石として、我が国の芸術文化の活性化を目指した今後の研究に大きな意味を持つものと考えております。

最後に、花王芸術・科学財団の一層のご隆盛と役員の方々の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

### プロフィール

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業後、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団ピオラ奏者を経て、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科にてMBA、博士号(学術)を取得。'02年より昭和音楽大学音楽学部専任講師、'04年より京都産業大学経営学部専任講師、'05年より同大学助教授(現職)



研究をまとめた著書(文眞堂刊)

科学技術部門 化学・物理学分野助成  
平成 15年度( 2003年 )

氏名 久田 研次 Hisada Kenji

助成研究テーマ

圧電体界面による有機超薄膜の  
誘導変形を利用した  
物質輸送表面の開発

花王芸術・科学財団の設立 15 周年おめでとうございます。長く続いた不況下において一貫して研究助成を継続してこられたこと、すばらしい成果であると思います。



私が本財団の助成を受けたのは、海外研修から帰国後に自らのアイデアをもとにした研究を立ち上げている時期でした。助成決定の通知を頂いたときには、金銭的な支援のみならず、自分の研究の方向性が審査員をしておられる諸先生方に受け入れられたと心丈夫に思ったものです。おかげさまで助成期間終了後も、ラングミュア・プロジェクト膜を中心とする有機超薄膜の濡れ特性や摩擦力など表面・界面の物性に関する研究を続けています。大学の法人化後、外部資金による研究費の確保が叫ばれてきています。ただし、企業との共同研究では、商品に結びつく結果が優先され、研究を進めていく上で様々な制限が生じてくるのも事実です。そのため、突飛とも思える新規アイデアを具現化するためには、営利団体でない組織からの助成が必須になりつつあり、今後その存在価値が重要になってくることでしょう。大学における研究を支えるためにも、貴財団のますますの発展を祈念いたします。

プロフィール

'9年 3月 京都工芸繊維大学工芸学部工業化学科卒業  
'96年 3月 京都大学工学研究科  
高分子化学専攻博士後期課程単位認定退学  
'96年 4月 福井大学工学部助手(現職)  
'98年 3月 京都大学博士(工学)取得  
受賞歴  
平成 14年度高分子学会研究奨励賞  
「ラングミュア・プロジェクト膜の分子集合構造と表面物性に関する研究」

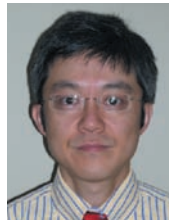
科学技術部門 皮膚の科学分野助成  
(現 医学・生物学分野)  
平成 10年度( 1998年 )

氏名 伊藤 寿樹 Ito Toshiki

助成研究テーマ

遺伝性光線過敏症の原因遺伝子の  
単離及び複製、転写に共役した  
修復機構の解明

花王芸術・科学財団設立 15周年誠にありがとうございます。貴財団第一回研究助成 皮膚の科学 を受領致しましたことは私にとって大きな喜びであると共に人生の転機となりました。免疫学のエキスパートであられます小安重夫選考委員



からご指導を仰ぐことが出来ましたことや花王の研究員の皆様の商品実用化に向けた真摯な姿勢など、私にとって大変為になることばかりでした。宇井理生選考委員長から伺った科学の楽しさ・厳しさ・奥深さは今後の課題を考える上で大変貴重なお話となりましたし、現長崎大学応用物理化学研究室内の助教でいらっしやいます森口勇先生とレセプション終了後に錦糸町駅前で見えかけたこと、今後の研究について語り合いましたことも心に残る思い出です。

受領翌年、縁ありましてカリフォルニア大学パークレー校に留学することとなり、今年 6月よりアイオワ大学で自分の教室を持つことになりましたのも貴財団の支援があったればこそと大変感謝しております。

貴財団が境界・融合分野の研究者を育成する魁として今後も若手研究者に考える場を提供し続け、更なるご発展を遂げられますことを心からお祈りしております。

プロフィール

'89年熊本大学医学部卒・同大皮膚科学教室入局。臨床研修後、同大・山泉克研究室院生となり、学位取得後同教室の助手を務める。'99年 9月よりカリフォルニア大学パークレー校研究員、現在アイオワ大学医学部助教。  
受賞歴  
皆見省吾記念賞(日本皮膚科学会)平成 5年  
内藤財団 平成 5年  
中富財団 平成 8年

## 花王研究奨励賞受賞

平成 10年度(1998年)~14年度(2002年)

### 独自のすばらしい研究成果を挙げ、 将来性ある若い研究者に対し、 顕彰を行っています。

花王株式会社では古くから表面・界面にかかわる分野の研究を行ってきたことにちなみ、本分野の基礎研究の振興と、若い研究者の育成に貢献することを目的とし、花王研究奨励賞をお贈りしています。

平成 15年度からは、「表面の科学」のテーマの下に、「化学・物理学分野」と「医学・生物学分野」の2つの分野を設けました。

#### 花王研究奨励賞 選考過程について

選考委員会による募集方針・要項の決定

受賞候補者 推薦募集

選考委員会(受賞候補者決定)

理事会(受賞者決定)

受賞された方々から、現在の研究テーマなどの近況をいただきました。

平成 10年度 表面科学  
君塚 信夫 Kimizuka Nobuo  
受賞研究テーマ  
界面化学と分子認識の融合による新しい分子組織化学の開拓



花王研究奨励賞は現在の私の原点であり、その後の成長を問われ続けていることに、いつも身が引き締まる思いです。'05夏、糸島半島の新キャンパスへ移転しましたが、これを機に新しい研究にチャレンジする所存です。

当 時 九州大学大学院工学研究科物質創造工学専攻助教授  
現 在 九州大学大学院工学研究院 応用化学部門教授  
受賞歴 平成 15年 高分子学会 Wiley賞(高分子学会)  
「自己組織性を有する新しいナノ分子システムの開発」

平成 11年度 表面の科学  
中田 聡 Nakata Satoshi  
受賞研究テーマ  
非線形ダイナミクスを活用した膜・表面の機能増幅に関する研究



現在は、自律移動素子の分子レベルでの制御をテーマとして研究を行っています。フランスの de Gennesのグループと「運動する界面の映像」のCDに最近寄与できました。貴財団が基礎研究を重視している観点到感謝しております。

当 時 奈良教育大学 教育学部 助教授 現在 同

平成 11年度 皮膚の科学  
室 慶直 Muro Yoshinao  
受賞研究テーマ  
膠原病患者の自己抗体とその対応抗原の分子生物学的解析



いまだに自己抗体とその対応抗原の研究を続けております。最近是我々がアトピー性皮膚炎患血清中に固定した抗DFS70/LEDGF抗体の研究をメインに頑張っております。

貴財団の益々の発展をお祈り致しております。

当 時 名古屋大学医学部付属病院皮膚科講師  
現 在 名古屋大学大学院 医学系研究科皮膚結合組織病態学助教授

平成 12年度 皮膚の科学  
森田 和政 Morita Kazumasa  
受賞研究テーマ  
皮膚におけるタイトジャンクションに関する研究



このたびは誠にありがとうございます。私は現在、花王研究奨励賞を受賞したことを励みに、従来からの皮膚のタイトジャンクションの研究に加えて、細胞内シグナル伝達や円形脱毛症の研究を行っています。

当 時 京都大学大学院医学研究科内科系皮膚病態学助手  
現 在 京都大学医学研究科皮膚科助手  
受賞歴 '01年度 資生堂基礎医学研究費  
'01年度 上原記念財団研究奨励金  
'03年度 内藤財団海外研究奨学金

平成12年度 表面の科学

中山 知信 Nakayama Tomonobu

受賞研究テーマ

C<sub>60</sub> CaF<sub>2</sub>単層結晶膜の形成と欠陥導入の原子プロセス研究



表面科学で培った技術と知見を生かし、単一ナノ構造が示す物性の直接計測に取り組んでいます。ナノスケールの理解が求められるバイオ分野では、半導体デバイスに比べて圧倒的な低消費電力で動作するバイオ信号処理システム、細胞の研究を開始しました。

当時 理化学研究所表面界面工学研究室 先任研究員

現在 独立行政法人物質・材料研究機構ナノマテリアル研究所

ナノ電気計測グループ アソシエイトディレクター

筑波大学大学院数理物質科学研究科物質・材料工学専攻助教授

受賞歴 文部科学省リーディングプロジェクト「走査型マルチプローブ統合制御装置の開発」研究代表(2004年7月-2007年3月)

’05年度池谷科学技術財団研究助成「分子間結合制御型C<sub>60</sub>分子ナノデバイスの開発」

13th International Conference on Scanning Tunneling Microscopy / Spectroscopy and Related Techniques ポスター賞「Striped Ag Film Growth at Low Temperature on Si(111)-4x1 In Chains」, 大淵千種、内橋隆、中山知信

平成13年度 表面の科学

村越 敬 Murakoshi Kei

受賞研究テーマ

電子の流れを制御する電気化学表面ナノ構造形成



ご援助いただきました後に北海道大学に異動しました。現在、電気化学的手法をベースに、メソスコピック領域にある無機・有機材料の合成ならびに構造制御を行い、物質系そのものに新しい機能を賦与・発現させる研究を行っています。

当時 大阪大学大学院基礎工学研究科化学系専攻助教授

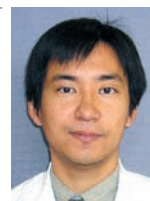
現在 北海道大学大学院理学研究科化学専攻教授

平成13年度 皮膚の科学

山口 裕史 Yamaguchi Yuji

受賞研究テーマ

上皮-間葉系相互作用を介した手掌足底型(掌蹠型)皮膚の再生機序及び掌蹠創傷治癒への臨床応用に関する研究



3年間 NIH の Vincent Hearing 研究室に在籍し、紫外線が皮膚に与える人種間差異やメラノソーム蛋白輸送の研究をしました。テーマに黒色腫と白斑が加わりました。貴財団への日頃からの感謝と共に益々のご発展を祈念致しております。

当時 大阪大学大学院医学系研究科分子病態医学皮膚科学講座助手  
現在 大阪大学大学院医学系研究科内科系

臨床医学専攻情報統合医学講座皮膚科学教室助手

受賞歴 ’04/4月 Dr. Albert M. Kligman Fellowship Award (’04年度 Society for Investigative Dermatology (SID) の学会賞)

平成14年度 化学・物理学分野

田中 敬二 Tanaka Keiji

受賞研究テーマ

高分子膜表面のガラス転移に関する研究



高分子科学、表面・界面科学を中心に研究を行っています。今後は光化学などとの境界領域で貢献していきたいと考えています。九州大学大学院工学研究院の化学系部門は箱崎キャンパスより、福岡市西区の伊都キャンパスへ移転しました。新しい環境で新しいことにチャレンジしていきます!

当時 九州大学大学院工学研究院応用化学部門助手

現在 九州大学大学院工学研究院助教授

受賞歴 ’95/ 5月日本レオロジー学会ベストプレゼンテーション賞

’96/ 5月複合材料界面シンポジウムポスター賞

’02/ 3月日本化学会BCS賞

’02/12月繊維学会西部支部繊維若手研究者賞

’03/ 4月複合材料界面科学研究会進歩賞

’03/ 5月日本レオロジー学会奨励賞

’03/10月ナノプロブテクノロジー奨励賞(日本学術振興会第16委員会)

’04/ 5月高分子学会研究奨励賞



## 花王研究奨励賞受賞

平成14年度(2002年)~16年度(2004年)

平成14年度 医学・生物学分野

加藤 昌志 Kato Masashi

受賞研究テーマ

RETにより制御される皮膚メラノサイト増殖とメラニン産生機序の解析



加齢とともに白髪を自然発症するマウス系の樹立:我々は生後直後の毛色がほぼ黒色であるが、生後8~10ヶ月後には全身の毛が白髪になる遺伝子改変マウスを新規に樹立した(特許申請中)このモデルの解析結果から、白髪予防・治療に有効な物質の試験管内での迅速選別法を提案した(特許申請中)。

当 時 名古屋大学大学院 医学系研究科微生物・免疫学講座助教授  
現 在 中部大学生命健康科学研究所環境予防医学部門衛生・公衆衛生学教授  
受賞歴 '02年度安江賞(東海皮膚科漢方研究会最優秀論文賞)

上原記念生命科学財団平成11年度海外留学助成金  
リサーチフェローシップ

臨床薬理研究振興財団第24回海外留学等補助金・海外交流交付金

平成15年度 化学・物理学分野

後藤 真宏 Goto Masahiro

受賞研究テーマ

高分子膜表面へのマイクロレーザー分子注入システムの開発



受賞時の研究テーマをさらに展開し、現在、固液界面における光励起された有機分子の動的挙動やナノライポロジーの研究を推進すると共に、有機分子を用いた次世代の光学、電子デバイス作製に向けた研究を行っております。

当 時 独立行政法人物質・材料研究機構材料研究所微小造形グループ主任研究員

現 在 同

受賞歴 '98/9月15日 第4回応用物理学会講演奨励賞

平成15年度 医学・生物学分野

椛島 健治 Kabashima Kenji

受賞研究テーマ

皮膚・粘膜免疫におけるプロスタノイドの役割の包括的解明



米国に留学してはや2年が過ぎました。現在は炎症細胞の生体内における位置決定のメカニズムとその制御に関する研究を行っております。留学前に貴財団の奨励賞を受賞できたことが自分の自信と励みになり、こちらでも高い志を忘れずに仕事に打ち込んでおります。

当 時 京都大学大学院医学研究科皮膚病態学助手

現 在 カリフォルニア大学サンフランシスコ校免疫学教室リサーチアソシエイト  
受賞歴 平成16年度日本皮膚科学会賞

平成16年度 化学・物理学分野

近藤 寛 Kondo Hiroshi

受賞研究テーマ

走査型トンネル顕微鏡と放射光X線分光法による自己組織化膜の構造と分子プロセスの解明



これまで、分子がどのようにして集合し一定の構造を作るかというテーマに取り組んできましたが、今後は、この現象の背後にある機構を定量的に明らかにし、さらに生命現象の分子論的機構解明を目指したいと思います。

当 時 東京大学大学院理学系研究科助教授 現 在 同

平成16年度 医学・生物学分野

森井 英一 Morii Eiichi

受賞研究テーマ

皮膚におけるマスト細胞の数と機能を制御する因子の解析



ヒトの表面である皮膚や粘膜において、その機能制御に重要と考えられるマスト細胞の分化と維持の機構の解析を行っております。種々の突然変異マウスを用いた移植実験と分子生物学的な手法を用いて日々実験しています。

当 時 大阪大学大学院医学系研究科病理病態学助手

現 在 同